

文 学 部

人 類 学 科

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
12101	人類学概論A I	必	1	2	前期	山田隆治
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 人間の生存の仕方の特徴を人類学の視点から考えるという全体テーマを設定し、考察の過程で人類学の基礎的概念、知識、考え方を習得させる。A Iは生物界との連続性を踏まえた上での人間生存手段の特徴に焦点を置く。

【講義計画】 毎回具体的なテーマを上げて考察し次のテーマへ連続させるやり方で進める。一冊で講義の全体をカバーするような適切な参考書はないからテキストは使用しない。代りに要点を板書し、ノートさせる。予定している主な個別的テーマは次の通り：オーストラロピテクス、ヒト化の過程、融通性の増大、最大量の学習知識、人間特有の成長型、子供は神の子、ゼロからの学習、間接経験と知識、シンボルと経験の再現、共通の世界、外界のモデル

【評価方法】 授業で提供した資料に基づく小論文を試験時間内に作成させ、資料の理解度とまとめ方にポイントを置いた評価を行う。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
12111	人類学概論A II	必	1	2	後期	山田隆治
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 人間の生存の仕方の特徴を人類学の視点から考えるという全体テーマを設定し、考察の過程で人類学の基礎的概念、知識、考え方を習得させる。A IIはA Iを踏まえた上で生存手段としての文化（知識としての行動様式と外的世界）の性質がもたらしている人間生活の特徴に焦点を置く。

【講義計画】 毎回具体的なテーマを上げて考察し次のテーマへ連続させるやり方で進める。一冊で講義の全体をカバーするような適切な参考書はないからテキストは使用しない。代りに要点を板書し、ノートさせる。予定している主な個別的テーマは次の通り：民族分類体系、オジ・オバ・イトコ、身内と他人、日暮時は魔が通る、モデルの区画性、予想と予想外、モデルの一般性、不可能への挑戦、呪術の世界、神霊への依存、超自然的適応

【評価方法】 授業で提供した資料に基づく小論文を試験時間内に作成させ、資料の理解度とまとめ方にポイントを置いた評価を行う。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
12121 12131	人類学概論B I・B II	必	1	各2	前期 後期	重松和男
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 人類学における歴史的な側面を考える手段としての考古学の研究方法を説明する。入門講義であるから、文献からではなく“もの”を媒介として歴史を考えることについての理解を目指す。

【評価方法】 筆記試験。出席重視。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12141 12142	人類学基礎演習A・B	必	1	4	通 年	坂 井 信 三 重 松 和 男
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 民族系の場合：文化人類学という学問の知識は三つの層から形成されている。第1は一人ひとりの人類学者がフィールドで出会う直接の経験。第2はその個別的な経験を、他の人類学者と共有できるような形で表明した「民族誌」。そして第3に、「民族誌」を素材にして、様々な立場、様々な観点から議論をたたかわせて形成される「理論」である。文化人類学は、これら三つの層を往復しながら、社会・文化現象を総体的に解明しようとする知的な運動であるといえる。

これから4年間にわたって文化人類学を学んでいくためには、これら三つの層のちがいを意識しながら論文を読み、あるいは講義を聞くことが必要になる。

したがって基礎ゼミでは、論文を読む技術を身につけることを中心に、あわせて、2年次からはじめる演習への導入として、資料を収集し、読み、内容をまとめ、自分の見解をつけて発表する技術を学ぶことを目的にする。

考古系の場合：文献を読み、利用しながら、特定テーマについて調べることを、そしてそれをレポートにまとめることを練習する。テーマについては、自分で決めることとする。

【講義計画】 民族系の場合：共通のテキストを用いて、はじめは教員が読み方の指導をし、時期を見て個人あるいはグループでの発表をしてもらう。各自が積極的に発言して、討論を活発化させてほしい。

【評価方法】 民族系の場合：授業への参加の態度を評価して平常点をつけ、加えて期末にレポートを提出してもらう。

考古系の場合：レポート

【テキスト】 民族系の場合：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12401 12405	人類学特殊講義A I・A II（日本考古学）	選・必	1～4	各2	前 期 後 期	伊 藤 秋 男
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 日本と朝鮮半島の古墳文化

【講義内容】 愛知県の中期・後期古墳文化の様相を明らかにするために、関係古墳をプリントとスライドを用いて紹介する。そして前期古墳文化（1994年度の講義内容）との文化的落差を明らかにするなかで、古墳文化の展開と終焉にみる諸特徴についてふれる。遺物論の対象としては、とくに鏡・武器・馬具を取り上げる。また日本古墳文化の展開の背景となった朝鮮半島の古墳文化についても、比較考古学的視点から適宜論ずる予定である。

【講義計画】 発掘作業が絶えることなく続けられる限り、最新の情報が提供されるから、講義内容の流れもそれによって大きく変更を余儀無くされる時もある。個別の知識を習得することには重きをおかない。それよりプリントやスライドで与えられた考古資料を材料に、古墳時代史を受講者みずからが考えることのできる時間となるよう努力したい。

【評価方法】 筆記試験の成績と出席回数から総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12411 12415	人類学特殊講義B I・B II（東洋考古学）	選・必	1～4	各2	前 期 後 期	重 松 和 男
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 中国考古学及び墓葬についての概説を行った後、中国新石器時代の大汶口文化を中心に墓葬研究の実際と展望を講義する。

【評価方法】 筆記試験。出席は重視する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
12431 12435	人類学特殊講義D I・D II (社会人類学)	選・必	1~4	各2	前期 後期	倉田 勇
他の科目との関連					他学科履修 可	重複履修 可

【副題】 『Makassai社会のDualism』

【講義内容】 東インドネシア・ティモール島の旧ポルトガル領Makassai社会の民族誌。The Makassai: Complementary Dualism in Timor by Toby Fred Lazarowitz 1980に基づいてBoralaの民族、経済、社会秩序、婚姻関係、祖先と儀礼、秩序と無秩序、政治と紛争などを内容とした講義である。著者は1974-5年8月まで同地の調査に従事していたがその最終段階でインドネシア政府によるティモール解放となった。内容は民族誌である。

【講義計画】 ノート中心の講義。説明には日本の事例も使う。

【評価方法】 (前期)Dualismに関するレポート
(後期)問題点2,3についての試験

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
12441 12445	人類学特殊講義E I・E II (宗教人類学)	選・必	1~4	各2	前期 後期	ペトロ・クネヒト
他の科目との関連					他学科履修 可	重複履修 可

【副題】 『人類学者による宗教の研究—研究史的アプローチ』

【講義内容】 人類学者による宗教研究史を通覧して概説することが講義の大枠である。そして講義の中で特に注目し、明らかにしようとするのは宗教人類学の分野で用いられてきた術語、つまり、典型的な現象を指し、研究の代表的動向を示している基礎的用語の意味、その用語の用いられ方、さらにはその歴史的背景等である。

【講義計画】

1. 宗教を対象にする世俗的学問の新しい出発。進化論の魅力と宗教起源の探求（フェティシ、靈魂、マナ等）
2. 人類の文化史における宗教の歴史的起源を探ろうとする試み（文化圏、原始一神教、伝播主義等）
3. 宗教を社会的事実として把握しようとする試み（デュルケーム学派、トーテミズム、原始的思惟、通過儀礼）
4. 現地調査がもたらした新しい認識。宗教の社会的役割（機能主義、呪術、社会的連帯等）
5. 現象学的に宗教の性格を分析しようとする試み（パターン、シャマニズム、ウィッチクラフト、儀礼）
6. 人類の思考の深層を現わす宗教（構造主義、神話、贈与論等）
7. 宗教の象徴性とそのダイナミズム（象徴、儀礼の再発見、けがれ等）
8. 宗教と生態

【評価方法】 前期と後期の末に筆記試験を実施する。参考書なしに一つのテーマについて論じてもらう形式である。

【テキスト】 J.van Baal, W.E.A. van Beek Symbols for communication. Assen. 1985.
B.Morris Anthropological Studies of Religion Cambridge 1987.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12451	人類学特殊講義F I (民族誌)	選・必	1~4	2	前期	加藤隆浩
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 インカ文明の発展に関する研究

【講義内容】 インカ。この文明は、何か人の胸をときめかせるものがある。アンデス山脈の雄大な自然環境の中で、旧大陸とは独自に高度な文明を発達させ、多くの謎を残したまま消え去った。この講義では、考古学・文化生態学・民族学の最新のデータを組み合わせ、国家の形成、特に古代アンデス文明の発展とそのプロセスを歴史的に概観し、その最終段階として成立したタワンティンスユー（インカ帝国）とは、どのような社会・文化を備えていたかを検討する。またそれと同時に、古代アンデス文明を分析する上で必須となるさまざまな文化人類学的用語やトビクラーたとえば、アーリーマン、言語年代学、ホライズン、灌漑文明、文化生態学、文化進化論、エスノヒストリー、ヴァーティカル・コントロール、互酬と再分配などーについて考察する。アンデスの古代文明に関しては、いまなお多くの謎が残されており、上記の基本概念を修得した上で、参加者全員の想像力と推理力を働かせながら討論し、まだ闇に包まれたこの古代文明の神秘的ベールを剝していくのも、本講義の目標の一つである。

【講義計画】 第一回の講義で各テーマに関する文献リストを配布する。
 受講生は、前もって予定されるテーマに関する文献に目を通しておく必要がある。
 文献は必ずしも日本語ばかりではない。
 講義の中では、しばしば、教員と学生との間で質疑応答がなされる。
 講義の内容は、1)アーリーマンの出現 2)コトシュ遺跡の意義 3)チャビン起源論争 4)シカン文明の謎 5)ワリ帝国の認知 6)クスコ王国からインカ帝国へ 7)始祖神話の意味するもの 8)J・ムーラとヴァーティカル・コントロール 9)セケ・システムとライデン学派 10)ミイラと帝国の興亡

【評価方法】 質疑応答、毎月課されるレポート、定期試験の成績などから総合的に評価する。この講義では、多数の文献を読むことになる。それなりの熱意と覚悟が必要であろう。

【テキスト】 『文化人類学辞典(縮刷版)』（弘文堂）があれば便利。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12455	人類学特殊講義F II (民族誌)	選・必	1~4	2	後期	加藤隆浩
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 マヤ文明の没落に関する研究

【講義内容】 マヤ。この文明も、何か人の胸をときめかせるものがある。メキシコからグアテマラにかけての熱帯雨林地域に、旧大陸とは独自に高度な文明を発達させ、多くの謎を残したまま人知れず衰退し消え去った。この講義では、考古学・文化生態学・民族学の最新のデータを組み合わせ、メソアメリカの古代諸文明の興亡史にマヤ文明の発生と衰亡とを位置づけ、特に謎の多いマヤ文明の最終段階、つまりその文明の凋落が、なぜ、どのようなプロセスを辿ったのかを諸説を検討しながら検証していく。またそれと同時に古代メソアメリカ文明を分析する上で必須となるさまざまな文化人類学的用語やトビクラーたとえば、焼畑耕作、ニューアーケオロジー、交易、考古天文学、神権政治、メソアメリカ、文字、コスモロジーなどーについて考察する。マヤ文明に関しては、いまなお多くの謎が残されており、上記の基本概念を修得した上で、参加者全員の創造力と推理力を働かせながら討論し、まだ闇に包まれたこの古代文明の神秘的ベールを剝していくのも、本講義の目標の一つである。

【講義計画】 第一回の講義で各テーマに関する文献リストを配布する。
 受講生は、前もって予定されるテーマに関する文献に目を通しておく必要がある。
 文献は必ずしも日本語ばかりではない。
 講義の中では、しばしば、教員と学生との間で質疑応答がなされる。
 講義の内容は、1)メソアメリカとその文化的要素 2)オルメカ起源論争 3)ニューアーケオロジー

4)大型祭祀センターとしてのテオティワカン 5)トルテカの南進 6)マヤ文明の成立と展開 7)焼畑とトウモロコシ栽培 8)マヤの神々 9)宿命論的コスモロジーと暦 10)急激な崩壊か緩慢な崩壊か

【評価方法】 質疑応答、毎月課されるレポート、定期試験の成績などから総合的に評価する。この講義では、多数の文献を読むことになる。それなりの熱意と覚悟が必要であろう。

【テキスト】 『文化人類学辞典（縮刷版）』（弘文堂）があれば便利。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
12461 12465	人類学特殊講義G I・G II（考古学）	選・必	1～4	各2	前期 後期	周 藤 芳 幸
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 この講義では、紀元前3000年頃から紀元前1200年頃に及ぶ青銅器時代のエーゲ海とギリシア本土に展開した諸文化（いわゆるエーゲ海文明）のさまざまな特徴と問題点について、最新の調査・研究動向を参照しながら考察する。

【講義計画】 講義にあたっては、初めにエーゲ海考古学の学史を展望し、それが19世紀以来どのような理論と発掘調査とのフィードバックによって発展してきたのかを明らかにする。ついで、主として集落組織と社会構造の変遷の問題に焦点を絞りながら、①初期青銅器時代エーゲ海島嶼部の諸文化について、②中期及び後期青銅器時代クレタ島の宮殿文化について、③後期青銅器時代ギリシア本土のミケーネ文化について、それぞれ内容を吟味する。その際には、エーゲ海の自然環境の特殊性と、遺跡及び遺物の実態を理解してもらうために、スライドを多用しながら講義を進めていきたい。

【評価方法】 筆記試験。出席重視

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
12481 12485	人類学特殊講義J I・J II（考古学）	選・必	1～4	各2	前期 後期	早 川 正 一
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 『南太平洋のEthnoarchaeology』

【講義内容】 考古学の研究対象は、なにも原始人とその文化とか紀元前の古代王朝文明の問題とは限らない。最近の考古学は様変わりが著しく、江戸文化考古学、産業考古学、環境考古学など思いもかけない人類文化の歴史や空間を縦横に探索してゆく傾向にある。この講義も例外ではなく、過去わずか数百年しかさかのぼれないような南太平洋の島々の伝統文化を民族学や社会人類学の豊富な研究成果を参照して、別の角度である考古学からのアプローチが可能である。

代表的な参考書は、S.Kent(ed.) Method and Theory for Activity Area Research (1987 N.Y.)をあげておく。

【講義計画】 南太平洋の広大な海域に人類学としての目を開かせた古典的な民族学の成果や学説、そして、近年著しく発達してきたEthnoarchaeologyの理論と実際を紹介する事から開始したい。それらを前提として、具体的な地域研究の資料をさしずめ、ニューギニア高山地帯、カロリン群島、小スンダ列島などに求めて論考する予定である。なお、必要に応じて講義内容をもっと理解させるため、適切な博物館や特別展覧会の訪問といった、交通費のかかる学外授業を補講として加える事も考慮しているの、特に他学科生には不向きである。

【評価方法】 真面目に受講させるため、出欠席を成績に反映させる。遅刻は講義をする者にとって迷惑なので認めない。期末2回のテストを実施するので、毎時間のノートは欠く事が出来ない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12491	人類学特殊講義K I (民族学)	選・必	1~4	2	前期	森 部 一
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 『東南アジア・インドシナ大陸部の高地民社会と低地民社会における儀礼と権力と経済の相互関係』

【講義内容】 本講義は、インドシナ大陸部の低地と高地に関する人類学の古典的なテーマに注目し、そのテーマをめぐる最近の研究成果をできるだけわかりやすく紹介・説明することによってこの地域に関する受講者の知識・理解を深めることを目指す。

【講義計画】 上述の目標に向けて、
 ①上記の古典的テーマに関する概説
 ②具体的な研究成果の内容の紹介・説明
 という予定で授業を進めていく予定。

【評価方法】 定期試験の結果と出席を重視して評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12495	人類学特殊講義K II (民族学)	選・必	1~4	2	後期	森 部 一
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 『東南アジア・インドシナ大陸部の高地民社会と低地民社会における儀礼と権力と経済の相互関係』

【講義内容】 本講義は、インドシナ大陸部の低地と高地に関する人類学の古典的なテーマに注目し、そのテーマをめぐる最近の研究成果をできるだけわかりやすく紹介・説明することによってこの地域に関する受講者の知識・理解を深めることを目指す。したがって本講義の内容は人類学特殊講義K Iの続きである。

【講義計画】 上述の目標に向けてさらに幾つかの研究成果を紹介し、説明していく予定。

【評価方法】 定期試験の結果と出席を重視して評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12501	人類学特殊講義L I (民族学)	選・必	1~4	2	前期	吉 原 和 男
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 中国系移民社会の社会構造(1)

【講義内容】 香港、タイの華人社会の社会組織の形成と発展を中国伝統社会の社会構造と関係づけて考察する。

【講義計画】 (1)香港における宗親団体の発達
 (2)香港における同郷団体の発達
 (3)タイ国における宗親団体の発達
 (4)タイ国における同郷団体の発達
 ビデオとスライドを使用した講義を1, 2回行なう。

【評価方法】 筆記試験、出席重視。

【テキスト】 未定 (1995年春に出版予定の書物を指定する予定)

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者		
12505	人類学特殊講義L II (民族学)	選・必	1~4	2	後期	吉原和男		
他の科目との関連					他学科履修	可	重複履修	可

【副題】 中国系移民社会の社会構造(2)

【講義内容】 北米の華人社会の社会組織の形成と発展を概観した後、中国における改革・開放体制の展開およびインドシナ戦争の終結がもたらした影響による華人社会の変容と中国系移民社会のグローバルなネットワークを考察する。

【講義計画】 (1)ニューヨークとカリフォルニアの華人社会
(2)1980年代以降の華人社会と新移民
(3)カナダの華人社会と1980年代以降の変化
ビデオとスライドを使用した講義を1, 2 回行なう。

【評価方法】 筆記試験、出席重視。

【テキスト】 未定

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者		
12511 12515	人類学特殊講義MI・MII (民族学)	選・必	1~4	各2	前期 後期	坂井信三		
他の科目との関連					他学科履修	可	重複履修	可

【副題】 「文化人類学の諸理論」

【講義内容】 文化人類学という学問分野が成立して以来100年あまりのあいだに、進化主義・機能主義・構造主義など様々な理論が提唱され、論争をよび、そして交替してきた。そして現在、ふたたび理論上の転換期をむかえている。本講義では、これまでの理論を再検討し、人類学の将来を展望してみた。

【講義計画】 前・後期を通じて学説史を通観し、それぞれの時代に提唱された理論を検討・評価していく。

【評価方法】 筆記試験

【テキスト】 綾部恒雄編『文化人類学15の理論』（中公新書）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者		
12601 12611	人類学特殊研究A I・A II (民族学)	選	1~4	各2	前期 後期	石井眞夫		
他の科目との関連					他学科履修	不可	重複履修	可

【副題】 民族誌のなかの性差

【講義内容】 ジェンダー問題に対する関心の高まりとともに、今日では様々な分野で性や性差に関する研究がなされている。人類学での研究は異文化における性差の比較研究に始まり、文化による差異の比較とともに普遍性への関心も高い。本講義では、民族誌の中の様々な事例を社会人類学的観点から比較検討することによって、性差のもつ社会的意義を考察してゆく。

【講義計画】 講義は以下の順で進める予定である。
①人類学における性差研究。

- 古典的研究から近年の諸研究への移行を通覧する。
- ②人類にとっての性差
人類社会にとって性差とは何か。その概略の考察。
 - ③文化としての性差
民族誌の中の性差の多様性とその様々な機能。
 - ④社会組織と性差
その相互関係、相互作用について検討する。
 - ⑤まとめ
最近の諸研究を民族誌と対照しつつ検討する。

【評価方法】 レポート、試験による。

【テキスト】 なし。参考文献は講義の際に指示する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
12621 12631	人類学特殊研究B I・B II (民族学)	選	1~4	各2	前期 後期	杉本良男
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 可

【副題】 宗教の根源的暴力性—南アジアの宗教的ナショナリズム

【講義内容】 本講は、インド・スリランカにおける宗教的ナショナリズムの現状とその歴史的背景について考察し、さらに宗教の名のもとに暴力化するナショナリズムが、宗教が政治的に利用された特異な現象であるのか、それとも宗教に根源的な暴力性が内在されているのかについて論じようとするものである。

【講義計画】 ①本講の鍵概念となる「宗教」についてこれを普遍的概念ではなく、歴史的・局地的概念としてとらえ、再検討する。
②南インドおよびスリランカにおける宗教と政治との関係について歴史的に概観する。
③南インドおよびスリランカにおける宗教的ナショナリズムの現状について考察する。
④宗教の根源的暴力性について、学生との討論をまじえて総括的に考察する。

【評価方法】 出席などの平常点とレポートによる。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
12641 12651	人類学特殊研究C I・C II (考古学)	選	1~4	各2	前期 後期	渡辺誠
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 可

【講義内容】 I (前期) では、縄文文化の主要なテーマについて民俗学的観点から検討する
II (後期) では、縄文文化の特徴を周辺地域との関連から検討する。
昨年の特講Gを受講した学生が望ましいが、それ以外を排除することはない。

【評価方法】 筆記試験

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
12901	文化人類学外書講読A (民族学)	選・必	2	4	通年	森部一
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 文化人類学のうち、社会および文化に関する英文テキストの講読をとおして、基礎知識の習得を

目指す。

【講義計画】 上述の目標に向けて、前期ではRobert Redfield著『Peasant Society and Culture』(1956: The University of Chicago Press)の一部を、そして後期にはE.R.Leach著『The Frontiers of 'Burma』(1960:『Comparative Studies in Society and History』所収)を用いる予定。
授業の進め方としては、毎時間、出席者全員にあたるように工夫したい。したがって受講者は必ず予習をしてきてほしい。
なお、テキストはコピーして最初の時間に配布する予定。

【評価方法】 定期試験の結果と出席を重視して評価する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者	
12902	文化人類学外書講読B (考古学)	選・必	2	4	通年	早川 正一	
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修	不可

【講義内容】 考古学・民具学・文化財学・美術史などが主体的に扱う「物質」とか「品物」を通して勉学し、研究する分野の基礎知識を培うため、英文原書を読ませる。

【講義計画】 特に考古学に関連する基本的な「専門用語」をできるだけ多く修得させることが主眼である。したがってテキストの英文を読ませて内容を理解させるだけでなく、その都度、要となる英文の専門用語を抽出して平易に解説し、理解を促す。必要があれば、それら専門用語の内容を図書館で調べさせ、クラスで発表させる宿題も考慮している。

【評価方法】 毎時間に継続して読む事が必須であり、出欠席の状況を成績に反映させる。加えて、期末2回のテストを課す。

【テキスト】 未定

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者	
12921	文化人類学演習A (考古学)	選	3・4	4	通年	伊藤 秋男	
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修	可

【副題】 日本と朝鮮半島の考古学

【講義内容】 両地域の考古学全時代にかかわる問題について、受講生各自が調査研究し、発表資料の作成、口頭発表、討論、レポート作成を通して、考古学研究のための初歩的な方法論を学ぶ。

【講義計画】 1)受講生の課題に対する興味が、どこにあるかを開講時に質問する。
2)課題設定に対する助言。発表順の決定。
3)発表資料の作成と口頭発表。
4)質疑応答と発表成果の評価。
5)レポートの作成と提出。
ほぼ上のような順序で演習は進行する。受講生の人数にも関係するが、すくなくとも3回は発表を義務づける。無断欠席は論外。

【評価方法】 発表資料の作成方法、発表内容と態度、レポートなどから総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12922	文化人類学演習B (考古学)	選	3・4	4	通年	重松和男
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 可

【講義内容】 各自でテーマを選び、発表・質疑応答を行う。テーマは相談の上で許可を得なければならない。強制的に質問をさせ、たがいに切磋琢磨するよう目指す。年間のまとめのレポートを課し、出来れば卒論のテーマへ続けさせる。

【評価方法】 試験に平常の発表・質問等の様子を加味する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12923	文化人類学演習C (考古学)	選	3・4	4	通年	早川正一
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 可

【副 題】 「機能や役割からみた考古学」

【講義内容】 考古学の基本的そして伝統的な方法が、発見された遺跡や遺物に対する型式学と層位学に依存している事は明白な事実である。そのうえで、機能や役割の問題を考察するのが目標であり、欧米の文献や関連する日本の研究者の動向をもとに適切なテーマを選定させ、各人の勉学成果を発表させて検討を加える。

【講義計画】 年間のスケジュールの中で、下級生は当初、上級生の発表の状況をよく観察し、その成果を聴取する事から始める。次の段階では、上級生を中心とした下級生主体のグループをつくり、上級生指導の共同発表を順次にさせる。最終段階では、上記の経験をもとにして、下級生の各人が個別にテーマにもとづく研究の成果を発表し、その都度、上級生が補助的なコメントを加え、全員で討論してみる。

【評価方法】 下級生・上級生の区別なく、各人の勉学成果である発表のコピー資料、他人の発表に対するコメントの状況などを総合的に評価する。もちろん、無責任な欠席は許されない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12924	文化人類学演習D (民族学)	選	3・4	4	通年	森部 一
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 可

【副 題】 『現代タイ社会と宗教変動』

【講義内容】 本演習は、今日タイ社会で目立っている宗教変動の様相を様々な文献を通して整理すると同時に社会変動との関連のもとで考察することにより、タイ社会の現状の理解を目指す。

【講義計画】 上述の目標に向けて
 ①文献の選定・発表順の決定
 ②発表の仕方の概説
 ③口頭発表
 という予定で授業を進めていく予定。

【評価方法】 定期試験・発表内容・質疑応答・出席などから総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12925	文化人類学演習E (民族学)	選	3・4	4	通年	ペトロ・クネヒト
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 可

【副 題】 儀礼の形式性についての考察

【講義内容】 儀礼行為を特徴付けるとされている「形式」とは何を意味しているのかを考えてみることにしている。

ブルデューが提案した『実践の理論』によって「ハビトゥス」「実践」「ストラテジー」を先ず理解してから、この仮説が応用された新しい儀礼研究を検討する予定である。

【講義計画】 資料文献を分けあて、毎回発表してもらいが、クラス全体の参加協力をその前提とする。期間中の数回にわたって、理解を深める目的で小レポートを書かせる。各学期末に総合的レポートを提出させる。

【評価方法】 レポートと積極的な参加態度を評価の基準とする。

【テキスト】 P.Bourdieu Outline of a Theory of Practice Cambridge 1977.
C.Bell Ritual Theory,Ritual Practice Oxford 1992.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12926	文化人類学演習F (民族学)	選	3・4	4	通年	坂井信三
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 可

【副 題】 「イスラーム文明の社会人類学的研究」

【講義内容】 イスラームは、地理的にはインドネシアからセネガルまで、ユーラシア・アフリカにまたがる広大な地域に広がり、様々な民族を含んでいる。また歴史的に言えば、それは西欧キリスト教文明、インド文明、中国文明とならぶ大文明を形成してきた。特に今日、世界が西欧の文明とイスラーム文明に二分された観のある中で、この文明の社会・文化・歴史について、ある程度ふみこんだ知識をもつことは不可欠であろう。

【講義計画】 前期は共通のテキストを利用してイスラーム文明の歴史・文化・社会について一般的な知識を身につけ、後期は各自の興味にもとづいて、個別の問題について研究発表をしてもらう。

【評価方法】 ゼミでの発表をさらに深化させたレポートを提出してもらう。

【テキスト】 特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12928	文化人類学演習H (民族学)	選	3・4	4	通年	倉田 勇
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 可

【副 題】 『東インドネシア、ケダン人の共同体思考』

【講義内容】 東インドネシア・フローレスの東端のケダン社会の実地調査からR.H.BarnesはKédang－A Study of the Collective Thought of an Eastern Indonesian People.1974を書いた。同書はインドネシアにおける英国社会人類学者の最初の成果といえる。Rodney Needhamは、同書を新しい民族誌的業績であり分析的だと評している。

【講義計画】 Introductionを除いて280頁を年間各自2回の当番として割当て、1回10頁位をまとめて報告し、中から課題をとりあげる方法をとる。

【評価方法】 各自のつくる報告資料に重点をおく。

文 学 部

教育学科

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13101 13105	教育学Ⅰ・Ⅱ	必	1	各2	前期 後期	三上 茂
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 「人間の人間化への他の人間による援助」としての教育の基本構造を明らかにし、学校教育の目的、内容、方法、経営、制度等について概観する。

教育学Ⅰ（前期）では、教育の基本構造を様々な角度から考察する。教育の概念を検討するために、制作や栽培、さらに飼育・調教との類比で考えられる教育概念が不適切であること、人間化の内実が文化化・社会化であることを究明する。次に同じように人間を相手にするものであっても、宣伝・洗脳・情報伝達・情報操作等がどの点で教育と類似し、どの点で相違するかを検討する。教授・学習理論について歴史的に概観し、プラトンの学習＝想起説やアウグスティヌスの照明説、近代経験論のタブラ・ラサ説、現代行動主義心理学の条件づけ理論などを検討する。

教育学Ⅱ（後期）では、学校教育の歴史的発展を概観し、学校教育の特質、現代の学校の抱えている問題点等について触れた後、学校教育の目的、教育課程、学習指導および生活指導、学校経営と学級経営、教育行政等の問題についてその概要を見てゆく。

【講義計画】 講義は前期・後期ともテキストを使用しないので、ノートをしっかり取る必要がある。時にビデオも使用するが、その場合は、コメントを要求する。

【評価方法】 期末試験、ビデオのコメント、感想文、夏休み中の文献読書のレポート等によって総合的に評価する。出席状況も考慮する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13111	心理学Ⅰ	必	1	2	前期	泉 ひさ
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 心理学の基礎知識として心理学の定義、歴史、学習目標、研究方法、研究領域等について解説し、更に人間の精神機能の基礎となる感覚と知覚及び知的面に関係のある学習、記憶、知能等の内容を説明すると共に、各心理現象の発達の特徴についても言及する。

【講義計画】 上述の内容について主として講義形式をとるが、内容によってはVTRや実験を施行する。

【評価方法】 学期末のテスト、レポート、出席状況等から総合的に評価する。

【テキスト】 泉ひさ著『心理学入門：発達を中心として』（ナカニシヤ出版）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13115	心理学Ⅱ	必	1	2	後期	泉 ひさ
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 人間の行動の原動力として考えられる欲求の感情、そして行動の多様性の基礎となる性格について解説すると共に、青年が体験する適応の諸問題（大学生生活、就職、性と性差、恋愛と結婚）について実態調査にもとづいて解説する。

【講義計画】 上述の内容について主として講義形式をとるが、内容によってはVTRや実験を施行する。

【評価方法】 学期末のテスト、レポート、出席状況等から総合的に評価する。

【テキスト】 泉ひさ著『心理学入門：発達を中心として』（ナカニシヤ出版）

科目コード	科 目 名	指定	年次	単位	期間	担 当 者
13121	教育史 A	必	1	2	前期	廣田 照幸
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 本講義は、社会史・歴史社会学的視点から日本教育史を概観することを目的としている。同時に、近年の西洋教育史研究の展開を踏まえて、西洋教育史のいくつかのトピックについても、併せて講義する。

【講義計画】 以下の内容を講義する。

- (1)歴史をどうみるか
- (2)「教育」の誕生
- (3)江戸時代の教育
- (4)初等教育の歴史の変容——西洋と日本
- (5)中等教育の歴史の変容——集団葛藤と学歴主義
- (6)高等教育の歴史の変容——日本の学歴秩序の形成

【評価方法】 授業終了後のレポートを重視する。また、出席も評価に加味する。

【テキスト】 指定せず。

科目コード	科 目 名	指定	年次	単位	期間	担 当 者
13125	基礎統計学	必	1	2	後期	神谷 俊次
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 教育学・心理学を学ぶ上で必要となるデータの扱い方、統計的な考え方の基礎について理解することを目的とする。統計学の専門的な知識は、2年生以降の心理教育統計学Ⅰ・Ⅱで学ぶので、この講義では、具体的な資料や簡単なデータを実際に処理しながら統計の基礎を身につける。

【講義計画】 (1)教育学・心理学における統計の役割

- (2)数の意味
- (3)社会調査…標本抽出、質問紙のワーディング
- (4)データの特徴の理解…代表値、散布度
- (5)図表の書き方
- (6)クロス表の読み方、エラレーション
- (7)関係の記述…相関、回帰
- (8)推測の考え方

【評価方法】 出席、レポート、筆記試験によって評価する。

【テキスト】 飯尾晃一『統計学再入門』中公新書

科目コード	科 目 名	指定	年次	単位	期間	担 当 者
13131	教育基礎演習Ⅰ	必	1	2	前期	神谷 俊次 神井 朗
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 教育学・心理学を学ぶための基礎となる知識、技法を習得することを目的とする。そのために、文献探索の方法、ワープロとしてのコンピュータの利用、レポートの書き方についての理解を得るとともに、教育学・心理学両領域の基礎的な論文を取り上げて講読・討議することによって、さまざまな問題について批判的に検討する態度を養う。

- 【講義計画】 (1)授業概要、講読論文の説明
 (2)文献探索講習、図書館探索
 (3)GEMMA 講習
 (4)ワープロ講習 1、2
 (5)文献講読 1～6
 (6)レポートの書き方 1 (心理系)
 (7)レポートの書き方 2 (教育系)

【評価方法】 欠席回数が多い場合は単位を与えない。評価は、文献講読、レポート（ワープロ講習課題、GEMMA 講習課題、自由テーマによる最終レポート課題）、出席に基づいて行う。

【テキスト】 テキストは使用しないが、講読論文は配布する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者		
13141	教育社会学 A	必	2	2	前期	酒井 朗		
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修	不可	

【講義内容】 この講義は、全体社会と教育という営みがどのように関わっているのかについて理解を深めることを目的とする。人間が社会の中に生まれ落ちるとはどのような意味かといった原理的な問題を踏まえたうえで、近代社会における学校教育の成立と意味とその社会的機能、および現代社会における教育の変化について検討する。

- 【講義計画】 *文化・文化化
 *社会の一員になる：社会化
 *教育への社会学的接近
 *学校のある社会、学校のない社会
 *教育機会の不平等
 *学歴社会の成立
 *情報化社会の教育と社会化
 *教育改革と学習社会

【評価方法】 1)出席と講義への参加度 2)レポート 3)学期末試験の3つを総合的に判断する。

【テキスト】 天野郁夫他『教育社会学』日本放送出版協会、1994

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者		
13145 13611	教育心理学 I・II	必・選	2	各2	前期 後期	石田 裕久		
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修	不可	

【講義内容】 教育心理学の中心的課題である「人間の成長と発達」および「学習」の諸過程について理解を深めるとともに、教育指導・方法にかかわるさまざまな問題についても解説を加える。
 本講義は、教育学科学生に限り、教職に関する専門科目に充当することができる。

【講義計画】 教育心理学 I（前期）では、乳幼児期から青年期に至る心身の発達を知的発達、心理社会的発達、自己意識の発達という3つの側面からたどるとともに、教育（学習の過程）と発達のかかわりについて解説する。
 また、教育心理学 II（後期）では、知能・学力・性格などの理解を踏まえて、教育の方法や技術・評価の在り方についての講義を行なう。

【評価方法】 前期・後期とも定期試験期間中に筆答による論述試験を行なう。また、授業内容に関わるレポートの提出を求めることがある。

【テキスト】 神谷有司他（編）「発達と教育の心理学」協同出版

(注) 旧カリ生は、教育心理学Ⅱも必修。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13155 13156	原典講読B	必	3	各2	前期 後期	三上 茂
他の科目との関連	教育学				他学科履修 不可	重複履修 可

【講義内容】 Martin Buber: I and Thou (原文はドイツ語、その英訳)を読み、人間の世界への関わりの方が二重であるということの意味を考え、現代の人間の問題、同時に教育の問題をブーバーの「われとなんじ」の対話という視点から検討する。

【講義計画】 前期の続きを後期も行うので、後期だけを履修することはできない。毎時間受講者の訳読の後、適宜解説を交えて進めて行く。内容的な理解を求めるので、考えながら訳を作る努力が要求される。

【評価方法】 講読時の訳読、期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13157 13158	原典講読B	必	3	各2	前期 後期	石田 裕久
他の科目との関連	心理学				他学科履修 不可	重複履修 可

【講義内容】 心理学の諸問題（リーダーシップ、同調行動、学習の構え、認知的不協和、態度変容、対人魅力、援助行動、愛着の形成など）を扱った研究論文を訳読・発表しつつ、さまざまな心理学的概念について理解を深めることを目的とする。

【講義計画】 それぞれの研究論文を数名のグループで担当し、全訳のレポートを作成する。それにもとづいて、発表・質疑応答を行なう。受講生には、事前にレポートに目を通し、質問事項、意見をまとめた上で授業に臨むことが求められる。

【評価方法】 1つの研究論文を読み終わるごとに、その内容に関する筆記試験を行なう。したがって、定期試験期間中には試験を実施しない。また、授業中の発表の仕方、討論への参加度なども評価の対象とする。

【テキスト】 今年度は、以下の4論文を予定している。

- ①Zajonc, R.B. 「Attitudinal effects of mere exposure」
- ②Aronson, E. & Linder, D. 「Gain and loss of esteem as determinants of interpersonal attractiveness」
- ③Darley, J.M. & Latane, B. 「Bystander intervention in emergencies」
- ④Festinger, L. & Aronson, E. 「Arousal and reduction of dissonance in social contexts」

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13251 13261 13271 13281	教育演習ⅠⅠ・ⅡⅠ・ⅢⅠ・ⅣⅠ	必	3・4	各2	前期 後期	三上 茂
他の科目との関連					他学科履修 不可	重複履修 不可

【講義内容】 哲学・人間学・教育学の文献の講読演習を通して現代世界の問題を人間や教育の視点から批判的に考察する。毎月の最後の週は各人の卒論に向けての文献研究の発表に当てられる。

【講義計画】 文献の講読を発表者を決めて順番に行い、受講者全員が参加して討論を行う。発表者はレジュメ

を用意し、質疑に対して応答できる準備をしていくことが要求される。発表者以外の受講者ももちろん質問やコメントを要求される。出席が厳しく要求される。

【評価方法】 毎回の発表、発言、レポート、合宿時の発表、レジュメ、出席状況等を総合的に判断して評価する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13252 13262 13272 13282	教育演習 I 2・II 2・III 2・IV 2	必	3・4	各2	前期 後期	廣田 照幸
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 本演習は、日本および西洋教育史に関する文献や史料の講読を通じて、人々の生活と学校の関わりの歴史的な変化や、家族・親子関係の歴史的な変化について考察することを目的としている。

【講義計画】 一方では、指定した文献の報告・討議を通して、教育史研究のための基本的な知識や研究方法を習得する。もう一方で、各自の問題意識に従ってテーマを設定し、先行研究の収集、史料の収集と分析を進めて、その成果を演習の場で順次報告し、受講者全員で討議することによって、具体的なテーマに沿った教育史研究を進める。

【評価方法】 指定文献の報告、討議の内容や参加度、各自に課した課題についてのレポート等から総合的に判断する。

【テキスト】 指定せず

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13253 13263 13273 13283	教育演習 I 3・II 3・III 3・IV 3	必	3・4	各2	前期 後期	酒井 朗
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副題】 教育社会学演習

【講義内容】 この演習は社会的な観点から現代の教育事象やさまざまな教育問題を批判的、分析的に理解する力量の形成をめざすものである。半期ごとにテーマを設定し、関連する文献を講読、検討する。受講者は、毎回文献に対するコメントを用意してこなければならない。また、これと並行して、受講者は各自の問題関心に基づいて文献、資料を収集し、定期的に報告する。

【講義計画】 演習は以下のような計画で進める。

前期 家族の現在
現代家族の諸問題について検討する。家族とは何かといった原理的な問題の他、家族をめぐるジェンダーの問題や家族の教育機能の問題までを扱う。以下のような著作や論文からいくつかを取り上げて検討する予定であり、具体的なシラバスを講義の最初に配布する。
*落合恵子『近代家族とフェミニズム』勁草書房、1989
〃 『21世紀家族へ』有斐閣、1994
上野千鶴子『近代家族の誕生』岩波書店、1994
上野千鶴子他『シリーズ変貌する家族 1～8』岩波書店、1991～2
坂本佳鶴恵「家族らしさ」吉田民人他『社会学の理論でとく現代のしくみ』新曜社、1991
小浜逸郎『可能性としての家族』大和書房、1988
その他、『家族社会学研究』、『教育社会学研究』、『社会学評論』掲載の諸論文など。
後期のテーマについては受講者の関心を把握した上で決定する。

【評価方法】 学期末のレポートと演習への参加度を総合的に判断して評価する。

【テキスト】 講義の最初に指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13254 13264	教育演習 I 4・II 4	必	3	各2	前 期 後 期	Michael Calmano
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 「比較教育学演習 I～II」

【講義内容】 演習の導入として各学期の初めには「比較教育学」そのものに関する理論的な考察を行うが、授業の主な内容は履修者の自由な発表から成り立つ。発表は広い意味での「教育」に関連があればよいが、この演習では“formal education”（公教育）と「人間発達」をテーマとする発表が普通大半を占めている。

なお、発表のための勉強にあたっては、次年度に書く卒業論文のテーマ設定を目指して取り組んだ方が望ましい。

【講義計画】 発表の当番となった履修者は授業の3日前までに発表のレジュメを教員に提出する。授業は発表をもとにして討論の形で行われるが、必要に応じて教員はプリントなどを用意して補足説明やテーマを発展させるための指導をする。その時、統計学的なデータや実証的研究も紹介するが、特に研究の価値の問題に焦点を合わせる。なお、夏合宿の勉強は、ある共通のテーマについて、履修者各自が選んだテーマの観点から、検討・議論する形を取る。

【評価方法】 授業への出席、先輩の発表への積極的な反応と発言、及び授業へ貢献するプレゼンテーションの準備を合格の必要条件とする。演習内容を対象とする筆記試験は行わないが、発表準備のために提出するレジュメは、授業参加の基本点とともに、成績を決める基準とする。

【テキスト】 共通のテキストを使わないが、発表の時に使う文献はこの比較教育学演習の参考資料とされる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13255 13265 13275 13285	教育演習 I 5・II 5・III 5・IV 5	必	3・4	各2	前 期 後 期	石 田 裕 久
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 教育心理学研究

【講義内容】 教育心理学研究の具体的方法についての理解を深める。そのために内外の研究論文を選んで発表した後、各自の問題関心に応じて研究計画の立案、データ収集、結果の分析、報告書の作成までを行なう。

【講義計画】 年間を通じた授業計画は以下のとおりである。
 ① 4 年次生による前年度の研究報告の発表（4 月）
 ② 各自が関心をもった研究論文の紹介（5～6 月）
 ③ 研究計画の立案・発表（7 月）
 ④ 研究計画の確定（夏合宿）
 ⑤ 調査・実験の実施（9～10 月）
 ⑥ 結果の分析（11 月）
 ⑦ 報告書の作成（12～1 月）

なお、調査・実験の実施にあわせて、SPSSX によるデータ解析のための実習を行なう。

【評価方法】 討論など授業への参加度ならびに提出された研究報告書により評価する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13256 13266 13276 13286	教育演習 I 6・II 6・III 6・IV 6	必	3・4	各2	前期 後期	神谷俊次
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 心理学に関する文献を専門雑誌から選び、発表・討論することにより、論文の読解力を養成する。さらに、各論文の問題点や各自の問題意識に基づき、テーマを設定し、そのテーマに対する適切な心理学的アプローチの仕方について考えていく。
受講生は、心理教育統計学 I、II 及び調査・測定法 I、II を履修すること。

【講義計画】 (1)受講生が各自の関心テーマに基づいて関連する文献を自ら収集し、発表する形で授業を進める。
(2)他の受講生の発表に対しても、積極的な意見表明を求める。
(3)テーマがある程度決まった後に、仮説検証可能な研究計画を立案する。
(4)研究計画に基づいて、観察法、実験法、調査法等により実際にデータを集め、分析・考察する。
(5)報告書を作成した後、研究発表を実施する。

【評価方法】 文献発表、出席、授業への参加度、最終レポートにより評価する。

【テキスト】 テキストは使用しない。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13257 13267	教育演習 I 7・II 7	必	3	各2	前期 後期	伊藤美奈子
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副題】 青年心理研究に関する演習

【講義内容】 本年度はおもに3年生が対象となるので、卒業論文作成に先立ち、研究テーマの探索と研究方法の修得を目的とする。I では、青年心理学の諸テーマに関する文献や研究論文の講読・発表、および討論を通じて、各自の問題意識や関心を深めるとともに、青年心理研究の方法論を学ぶ。また II では、グループにわかれて、各グループで選んだテーマについてミニ研究を行なう。

【講義計画】 本講義では以下のような内容で行なう予定である。
演習 I (前期)
青年心理に関する文献・研究論文についての講読、個人発表と全体討論を行なう。その際、以下の各点をポイントとする。①文献・論文の読解力を養う。②諸研究の独創性と問題点を把握する。③各自の問題意識や関心を明確化する。
演習 II (後期)
グループによるミニ研究
1. 研究計画…テーマの選択と資料収集。
2. 方法論の検討…テーマに応じたアプローチのしかたをグループ討議により決定する。
3. データ収集と結集についてのグループ討議。
4. グループごとにレポート作成 (ミニ研究論文)。
5. 研究発表会…研究結果の報告 (学会形式)。

【評価方法】 I に関しては、担当のテーマについての個人発表の内容、および討論への参加態度や意欲等から総合的に評価する。II ではグループ研究に関するレポート、および研究発表会の内容を評価の対象とする。

【テキスト】 とくに指定しない。ただし参考文献、論文、資料などを指定し、随時使用することもある。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13258 13268 13278 13288	教育演習Ⅰ 8・Ⅱ 8・Ⅲ 8・Ⅳ 8	必	3・4	各2	前期 後期	長谷川雅雄
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 本演習は、臨床心理学領域におけるさまざまな事象を学ぶことによって、人間の「こころ」の表層および深層を、一面的にはなく多面的な視点から深く探求していくことと、「心理的援助」の考え方について幅広く理解していくことを目指している。表層にしる深層にしる、「こころ」は静的なものではなく動的なものであり、その動きは容易にとらえがたい複雑さに満ちている。ある人の「こころ」を理解していくためには、他の重要な人物との過去から現在にいたる「関係」あるいは「関係の動き」のなかに理解していこうとする力動的な視点がきわめて大切となるが、ここにも重点をおきながら演習を進めていく。

具体的には、心理療法、精神病理学、精神分析学、深層心理学、パトグラフィーなどに関する著書や論文をテキストとし、講読・討論を行なう。その際、発表者は単にテキストの要旨だけでなく、疑問や関心を抱いた事項について、自ら調べたり考えたりしたことを書き添え（これを必ず守ること！）たレジュメを作成し、このコピーを全員に配布して発表する。全体討論の進行は、教師ではなく進行役（これも受講生が順次担当する）が務めるが、議論が深まっていくためには、当然の事ながら何よりも全員が下調べを十分にし、自らの考えや疑問点などを前もって整理しておくことが前提条件となる。

【講義計画】 前期および後期の前半頃までは上記のように、テキストを用いた発表・討論を行なうが、それ以降は、4年次生の「卒論・中間発表」と3年次生の「自由発表」とにきりかえ、同じく全体討論形式で進めていく。なお、適当な時期に、模擬体験として、セラピスト役とクライアント役にわかれて架空の面接をする「ロール・プレイ」を予定している。また、4月と9月には合宿を行なう。

【評価方法】 討論での姿勢や発表内容、提出レポートなどから総合的に評価する。また出席も重視する。

【テキスト】 土居健郎『方法としての面接』医学書院
河合隼雄『青春の夢と遊び』岩波書店。その他。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13274 13284	教育演習Ⅲ 4・Ⅳ 4	必	4	各2	前期 後期	Michael Calmano
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 「比較教育学演習Ⅲ～Ⅳ」

【講義内容】 演習の導入として各学期の初めには「比較教育学」そのものに関する理論的な考察を行うが、授業の主な内容は履修者の自由な発表から成り立つ。発表は広い意味での「教育」に関連があればよいが、この演習では“formal education”（公教育）と「人間発達」をテーマとする発表が普通大半を占めている。
なお、発表のための勉強にあたっては、卒業論文のテーマ設定と作成を目指して取り組むことが望ましい。

【講義計画】 発表の当番となった履修者は授業の3日前までに発表のレジュメを教員に提出する。授業は発表をもとにして討論の形で行われるが、必要に応じて教員はプリントなどを用意して補足説明やテーマを発展させるための指導をする。その時、統計学的なデータや実証的研究も紹介するが、特に研究の価値に焦点を合わせる。なお、夏合宿の勉強は、共通のテーマについて、履修者各自が選んだテーマの観点から、検討・議論する形を取る。

【評価方法】 授業への出席参加、後輩の発表への積極的な発言、提案（反応）と、及び授業へ貢献するプレゼンテーションの準備を合格の必要条件とする。演習内容を対象とする筆記試験は行わないが、発表準備のために教員に提出するレジュメは、授業参加の基本点とともに、成績を決める基準とする。

【テキスト】 共通のテキストを使わないが、発表の時に使う文献はこの比較教育学演習の参考資料とされる。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13277 13287	教育演習Ⅲ 7・Ⅳ 7	必	4	各2	前期 後期	泉 ひさ
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 幼児、児童、青年の各期を中心として、人生の各発達段階における心理的特色の把握及び現代的諸問題を分析すると共にそれらの解釈の試みを和洋の文献を参照しながら討議を重ねたい。

【講義計画】 学生各自に研究テーマを選定させ、それについてレポートを作成、発表、討議する。

【評価方法】 レポートの内容、発表様式、討議への参加の程度などを総合して評価する。

【テキスト】 上野一彦他著『生涯発達心理学』（ブレーン出版）
望月嵩他編『現代家族の危機』（有斐閣）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13601	教育史B	選	1	2	後期	廣田 照幸
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 本講義は、社会史・歴史社会学的視点から日本教育史を概観することを目的としている。同時に、近年の西洋教育史研究の展開を踏まえて、西洋教育史のいくつかのトピックについても、併せて講義する。

【講義計画】 以下の内容を講義する。
 (1)問題の所在
 (2)体罰の社会史
 (3)教育＝管理の歴史的構造
 (4)学歴主義の社会史
 (5)家族の社会史

【評価方法】 授業終了後のレポートを重視する。また、出席も評価に加味する。

【テキスト】 指定せず

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13605	教育社会学B	選	2	2	後期	酒井 朗
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 この講義では、学校という場で生じている種々の問題を社会学的観点からとりあげる。我々が普段自明と考えている事柄に光をあて、そこに潜む問題の性格を理解するのがこの講義のねらいである。講義は受講者に意見発表の機会を与えながら進める。

【講義計画】 具体的に次のような内容を取り上げる。
 ＊学校内部の選抜過程
 ＊学校の組織と文化
 ＊ジェンダーと教育
 ＊カリキュラムの社会学
 ＊教育問題の社会学
 ＊教育社会学の方法論

【評価方法】 1)出席と講義への参加度 2)レポート 3)学期末試験の3つを総合的に判断する

【テキスト】 天野郁夫他『教育社会学』日本放送出版協会、1994

(注) 旧カリ生は、必修。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13615	教育学特殊講義	選	2~4	2	前期	森上優子
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 日本語学科開講科目 33465「日本文化史文献講読B I」の講義概要を参照。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13621 13623	教育哲学A・B	選	2	各2	前期 後期	三上茂
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 差別の問題を検討する。Aでは人種差別に焦点を当て、主として南アフリカの例を見ることにする。白人による黒人の差別がどのような形で行なわれたか、社会の構造的な問題とともに、人間の意識、教育の問題とも関連させて考える。

Bでは民族差別に焦点を当て、日本による朝鮮の植民地化と在日韓国・朝鮮人の問題を取り上げる。歴史的な事実の確認とともに、現在および将来の日本のアジアとの関わりを視野に入れ考えてゆく。

【講義計画】 A, Bいずれも講義を主に行うが、時にはビデオを見せてコメントを求める。受講者数によって討議を加えることもある。A, Bいずれかを選択することも可能である。両者とも歴史を遡る検討になるが、差別の事実を通して人間の人間化に関わる教育が果たすべき役割についても検討したい。

【評価方法】 期末試験、ビデオのコメント、討議時の発言、出席状況を総合的に判断して評価する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13631	教育史特殊講義	選	2~4	2	前期	廣田照幸
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副題】 受験の社会史：明治から現代へ

【講義内容】 近代的学校制度が形成され、立身出世の階梯となっていた明治初年から、受験のための微細なシステムが完備したかに見える現代までの、受験の諸側面——受験生や受験文化、受験の社会システムとの関係など——の歴史的な変容について考察する。「受験体制=悪」という単純な図式を越えて、近代社会の形成・発展と受験システムの展開との密接な関わりのパラドクシカルな性質を明らかにしつつ、現代社会をどう見るかという問題にまで踏み込んでいきたい。

【講義計画】 最初に問題の所在を概説した後は、主として、文献の講読と参加者による討議を中心に進める。現代の学歴社会や受験体制に疑問を持つ者は、この授業を通していろいろな発見ができるはずである。ただし、本代をケチる人には不向きである。日本史の細かい知識は必ずしも必要ではないが、かなり早いペースで講読を進める。

【評価方法】 分担して担当する報告の資料、報告内容、質疑応答、レポート等から総合的に評価する。また、出席も評価に加味する。

- 【テキスト】 以下のものを予定している。
 天野郁夫『学歴の社会史』（新潮社、1992年）
 キンモンス『立身出世の社会史』（玉川大学出版部、1994年）
 広岡守穂『「豊かさ」のパラドックス』（講談現代新書、1986年）
 唐沢富太郎『学生の歴史』（創文社、1955年）
 竹内 洋『立志・苦学・出世』（講談社現代新書、1991年）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13635	教育社会学特殊講義	選	2～4	2	前期	酒 井 朗
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 南山生の学生文化

【講義内容】 この講義は、東京大学教育学部教育社会学研究室が全国の約10校の大学に通う大学生を対象に1994年11～12月に行った「大学生の意識と行動に関する調査」をもとに、わが南山大学の学生の意識と行動の特徴を明らかにするものである。受講者は、最初に調査票から、各自の関心を決め、コンピューターを用いて分析、報告する。社会調査の分析の手順とSP22統計パッケージの使用方法を学習するのが本講の目的である。
 最終的には受講者による報告書の作成を目指すものであり、受講にあたってはかなりの時間とエネルギーを要する。

【講義計画】 本講義ではまず社会調査の方法論についてごく簡単に学習したあと、各自の関心を報告してもらう。それから、コンピューターの使用法や分析方法を学習する。

【評価方法】 講義への参加の度合いとレポートの内容による。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13641	比較教育学A	選	2	2	前期	Michael Calmano
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 外国と比較して自国の教育は良くなるのか？

【講義内容】 テキスト ①を批判的に読みながら、教育学の一分野である「比較教育学」の歴史、理論、主な課題を概説する。諸外国（主にアメリカ合衆国とドイツ）との比較で、日本の教育制度（特に学校教育）の特徴を検討する（テキスト②）。統計学的なデータや実証的な研究にもふれるが、特に科学的研究における価値の問題に焦点を合わせる。

【講義計画】 英語で書かれている文章を教材に使うこともあるが、講義は日本語で行う。授業の大半は（多少一方的な）講義になるが、テキスト ①を題材にして、履修者のプレゼンテーションも要求する。人数が許す限り、ビデオ、プリントなどを出発点とする、クラス全体あるいはグループによるディスカッションを行う予定だ。

【評価方法】 授業への出席及び簡単なプレゼンテーションを合格の必要条件とする。講義内容を対象とする筆記試験は行わないが、日本と外国の教育事情に関して、履修者が自由にテーマを選んで、比較考察する学期末のレポートを課す。このレポートの成績に授業参加の平常点を加味して成績を決める。

【テキスト】 ①吉田正晴（編）、「比較教育学」（教職科学講座第8巻）、福村出版、1990年。
 ②R.P.ドーア著／松居弘道訳、「学歴社会 新しい文明病」（岩波現代選書）、岩波書店、1978年、第1章と第3章（プリントで配布する予定）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13643	比較教育学B	選	2	2	後期	Michael Calmano
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 日本の教育はユニークなのか？

【講義内容】 日本と諸外国（特にアメリカ合衆国とドイツ）の教育制度の違いと共通点を検討する。各国の教育制度を全般的に取り扱うより、現代しばしば注目されている「問題」、すなわち進学と入試制度、しつけと体罰、学校教育における道徳教育、個性と管理教育、教育現場と教育行政、授業と教科書などについて多面的に検討する。なお、取りあげる具体的なテーマの選択にあたっては、履修者からの希望も参考にする。

【講義計画】 英語で書かれている文章を教材に使うこともあるが、講義は日本語で行う。授業の大半は（多少一方的な）講義になるが、用意するプリントを題材にして、履修者のプレゼンテーションも実施する。人数が許す限り、ビデオ、プリントなどを出発点とする、クラス全体やグループ・ディスカッションを行う。

【評価方法】 授業への出席及び簡単なプレゼンテーションを合格の必要条件とする。講義内容を対象とする筆記試験は行わないが、日本と外国の教育事情を比較する学期末のレポートを課す。具体的なテーマは履修者が自由に選ぶ。レポートの成績と出席点をもとに成績を決める。

【テキスト】 共通のテキストは使わないが、学期末のレポートのために少なくとも一冊の本を批判的に読むことを期待する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13645	比較教育学特殊講義	選	2～4	2	後期	Michael Calmano
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 教科書問題

【講義内容】 比較教育学的観点に立ち、「教科書問題」をいろいろな側面から検討するが、次のようなテーマを取り上げる予定である。「科学、教科、教科書」、「教科書と教育課程」、「教科書と国家（教科書検定制度）」、「教科書と文化的遺産」、「教科書と学習者」、「教科書と教員（『学校教育とは何か』）」、「教科書とマス・メディア（なぜ依然として教科書を使うのか）」、「教科書と市場経済（出版社の役割）」、「教科書とは何か？」。

【講義計画】 外国語で書かれている文章を教材に使うこともあるが、講義は日本語で行う。授業の大半は（多少一方的な）講義になるが、宿題の形で調べて貰う文献を題材にして、履修者のプレゼンテーションを求めることもある。人数が許す限り、ビデオ、プリントなどを出発点とする、クラス全体やグループ単位のディスカッションを行う。

【評価方法】 授業への出席参加及び簡単なプレゼンテーションを合格の必要条件とする。講義内容を対象とする筆記試験は行わないが、日本と外国の教科書を比較する学期末のレポートは、授業参加の基本点とともに、成績を決める基準となる。（レポート作成に当たっては、履修者は自由にその国と教科を選ぶことができる。）

【テキスト】 共通のテキストは使わないが、学期末のレポートのために多少の参考文献、そして、学期末のレポートのために帝国書院やほるぷ出版の世界教科書シリーズから一冊の本を読むことは期待されている。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13651	教育課程論	選	2～4	2	前期	Michael Calmano
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 “How To Make A Curriculum”

【講義内容】 アメリカ合衆国の教育学者Ralph W.Tyler の著書を中心にして、教育課程作りの理論的な基礎を検討する。Tyler 理論の主なポイント（学校教育の教育目標設定、学習の達成に役立つ学習経験の選択、学習経験の組織、教育課程の効果の評価）を紹介しながら、日本の学校教育の問題点について考える。

【講義計画】 英語で書かれている文章を教材に使うこともあるが、講義は日本語で行う。授業の大半はTyler の著書の日本語訳を題材にする（多少一方的な）講義になるが、履修者のプレゼンテーションも行う予定である。人数が許す限り、クラス全体やグループ・ディスカッションを行う。

【評価方法】 授業への出席参加及び場合によって簡単なプレゼンテーション、を合格の必要条件とする。講義内容を対象とする筆記試験は行わないが、授業の内容に関連するテーマを取り上げる学期末のレポートは、授業参加の基本点とともに、成績を決める基準となる。（具体的なテーマは履修者が自由に選ぶことが出来る。）

【テキスト】 Ralph W.Tyler 著、金子孫生監訳、「現代カリキュラム研究の基礎－教育課程編成のための」社団法人 日本教育経営協会、1978年。この本は厳密な意味での「テキスト」ではないので、これを読むだけでは授業参加に代わるものとされない。むしろ、用意される文献目録から履修者各自がレポート作成のために参考にする本が重視される。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13655	教育制度論	選	2～4	2	後期	酒 井 朗
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 高校教育を考える

【講義内容】 中等教育、特に戦後の高校教育の流れを高校三原則の再検討を行いながら概観するとともに、今日の高校教育をめぐる諸問題について考える。また、問題克服の方途として提唱されている、新しい高校教育のあり方についても、その可能性と問題点を議論していきたい。受講者による文献の報告と討議を中心に進める。

【講義計画】 具体的には以下の内容を取りあげる。
 1)中等教育とは何か
 2)高校3原則の成立と崩壊
 3)高校教育の量的拡大
 4)高校の果たしている社会的機能
 5)外国からみた日本の高校
 6)高校生文化の変遷
 7)高校教育改革の動向（総合学科、単位制高校など）

【評価方法】 授業への参加の度合いとレポートの内容に基づいて総合的に判断する。

【テキスト】 トーマス・ローレン『日本の高校』サイマル出版会、1983
 門脇厚司、飯田浩之『高等学校の社会史』東信堂、1992

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13665	現代教育論	選	2～4	2	前期	田中節雄
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副題】 1970年以降の学校論を検討する。

【講義内容】 現代日本の学校の特徴を様々な角度から把握するために、1970年以降の学校論を検討する。担当者の専門が教育社会学なので、とり上げる学校論は主として教育社会学的なものとなるが、伝統的な教育学の観点からのものも検討する。

【講義計画】 初めの1, 2回で1970年以降の学校教育の動向を説明した後、ほぼ1回につき1人の論者をとり上げて、その論者の学校論を紹介し、コメントを述べ、最後に受講者との質疑応答を行う。紹介、検討する論者は、斉藤喜博、デュルケム、パーソンズ、ボールズ&ギンティス、イリイチなどである。

【評価方法】 出席回数と授業中の発言およびレポートによる総合的な評価。

【テキスト】 なし。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13671	子ども・青年論	選	2～4	2	後期	廣田照幸
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副題】 若者の昔と今：西洋と日本

【講義内容】 社会史の視点に立って、18世紀～現在における社会各層の青年の生き方や、社会の側からの青年のとりえ方の変容を考察する。特に、近年欧米で進展している諸研究から明らかになってきた知見や、そこで採用されている方法・視点に学びながら、日本における青年史像の再解釈の可能性を探る。

【講義計画】 最初に、本講義で考察する問題の枠組みについて説明した後、以下の順序で講義する。また、必要に応じて文献を講読することがある。
 (1)西洋の＜青年＞の社会史研究の概観
 (2)身分・階級と都市・農村
 (3)ムラの若者①——江戸から明治へ
 (4)ムラの若者②——明治後期～1950s
 (5)ムラの若者③——1950s～現在
 (6)学校と＜青年＞——明治～昭和戦前期
 (7)現代の＜青年＞①——戦後～1960s
 (8)現代の＜青年＞②——1970～現在

【評価方法】 授業終了後のレポートを重視する。また、出席も評価に加味する。

【テキスト】 指定せず。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13675 13676 13677 13678	実験心理学Ⅰ・Ⅱ	選	2	各2	前期 後期	神谷俊次
他の科目との関連	心理系の演習に進む者は履修することが望ましい			他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 心理学基礎実験

【講義内容】 心理学的研究を行う場合、研究方法を理解しておくことが必要不可欠である。この授業では、心理学的研究方法の中の実験法と観察法について、実習を通じて理解、習得することを目標とする。

【講義計画】 実験心理学Ⅰ
 (1)心理学研究法…実験法に関する解説
 (2)心理現象の科学的測定
 (3)実験の進め方…ミュラーリエル錯視、鏡映描写、系列位置効果、要求水準を取り上げ、小グループによる実験実習、データの分析、レポートの作成、研究発表を行う。

実験心理学Ⅱ
 (1)心理学研究法…観察法に関する解説
 (2)観察実習テーマに関する討論
 (3)観察研究…観察の実施、データの分析、研究発表
 (4)心理学実験のペアによる実習

【評価方法】 出席を重視する（無断欠席、遅刻は許されない）。
 実験心理学Ⅰ…レポート4回、研究発表による。
 実験心理学Ⅱ…レポート6回、観察結果発表による。

【テキスト】 『心理学実験マニュアル』を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13681	人格心理学A	選	2	2	前期	伊藤美奈子
他の科目との関連	人格心理学B履修のための前提科目			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 人格理論概説

【講義内容】 「人格」は、心理学の中でも最も曖昧な概念の一つである。この人格をめぐる諸理論を概観することにより、人間の発達や適応のメカニズムを理解する基盤を築くことを目的とする。臨床心理学や深層心理学の入門編として、人間のこころの構造や成熟のメカニズムについて、基礎的な解説を行いたい。

【講義計画】 講義は以下の項目内容で行なう。
 ①生得説と学習説…人格とは生まれつきのものなのか、経験により作られるものなのか。
 ②類型論と特性論…人格をタイプとしてとらえるか、諸特性の組み合わせでとらえるか。
 ③精神分析からみた人格…フロイトやユングの理論についての概説。
 ④発達の人格理論…エリクソン理論を中心に。
 ⑤人格障害について…問題行動に関する臨床事例をめぐって
 上記のような観点について、人格に関する基礎理論についての概説を講義形式で論じる予定である。人格心理学Bで展開される諸テーマを理解するための前段階として、さらには心理学に対する自分自身の興味や関心を探る一歩として、問題意識を持ちながら主体的に取り組んでもらいたい。

【評価方法】 学期末に試験を行なう予定であるが、随時レポート等を課し、それらを総合的に評価の対象とする。出席は原則的には重視したい。

【テキスト】 随時、プリント等を用意する。ただし、参考文献などを指定し、使用することもある。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13683	人格心理学B	選	2	2	後期	伊藤美奈子
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 人格に関わる諸側面

【講義内容】 人格心理学Aで行なう基礎的理論の概説を発展させた形で、後期はテーマ別に人間の「こころ」について考えていきたい。「こころ」を個人の内的なものにとらえる視点に加えて、他者と関わりながらも変容・成長して行く可能性を持つ力動的なものとして理解することを目指す。

【講義計画】 本講は、以下のテーマを中心に行なう予定である。
 ①人格の発達および成熟について…発達のな人格とは。成熟した人格とは。
 ②人格の変容と適応…カウンセリングによる人格の変容や、適応・不適応の問題について。
 ③対人関係からとらえた人格特性…自意識、自己開示、思いやり、孤独感など。
 ④人格測定方法…心理検査法についての概説—目的と問題点について。
 ⑤問題行動と人格…非行などの反社会的行動、対人恐怖やアバンシーなどの非社会的行動、および人格障害や多重人格者の問題など。
 以上のような観点に基づき、具体的なテーマを取り上げながら、人間の「こころ」の諸側面についての理解を深めることを目指す。

【評価方法】 学期末に試験を行なう。また、レポート等を課すこともあり、それらを総合的に評価する。出席は原則的に重視する予定である。

【テキスト】 随時、プリント等を用意する。ただし、参考文献などを指定し、使用することもある。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13685	発達心理学A	選	2	2	前期	伊藤美奈子
他の科目との関連	発達心理学B履修のための前提科目			他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 発達理論の紹介

【講義内容】 人間の発達はいろいろな観点から論じられてきた。発達とは、年齢という時間軸から人間の成長をとらえる概念であるが、かならずしも一方向的・直線的な変化過程ではない。そのため、多角的な側面から総合的に発達のメカニズムをとらえる目が必要とされる。本講では、発達心理学の基礎講座として、人間の発達をめぐる諸理論について概観することを目的とする。

【講義計画】 入門編にあたる発達心理学Aでは、以下に挙げるような観点から諸理論の概説を行なう。
 ①発達とはなにか…「遺伝vs環境」論争、「未分化から分化・統合へ」という発達図式等について言及しながら、発達を考えるいくつかの観点を紹介。
 ②発達研究の方法論…横断的方法vs縦断的方法、コホート分析などに触れる。
 ③生涯発達の考え方…成人期・老人期発達を含めて、発達を生涯続くものとしてとらえ直す理論を概説。
 ④認知的発達理論…ピアジェ、コールバーグを中心とした発達理論。
 ⑤社会性の発達…道徳性や性役割等の発達を概観。
 ⑥精神分析学における人格の発達…フロイト、サリバン、エリクソン、プロスなどの理論を紹介。
 ⑦他者との関係からみた発達理論…対象関係論、愛着理論、甘え理論、などについて。

【評価方法】 学期末に試験を行なう予定であるが、随時レポート等を課し、それらを総合的に評価対象とする。出席は原則的には重視したい。

【テキスト】 随時、プリント等を用意する。ただし、参考文献などを指定し、使用する予定である。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13687	発達心理学B	選	2	2	後期	伊藤美奈子
他の科目との関連	発達心理学Aの後編			他学科履修	可	重複履修 不可

【副題】 青年期に焦点づけた発達心理学

【講義内容】 発達心理学Aでは、人間の生涯を含み込んだ観点から、発達理論を中心とした概論を行ない、その後編にあたる発達心理学Bでは、発達諸段階の中でもとくに青年期に焦点をあて、青年心理にみる発達の特徴について論じていきたい。

【講義計画】 本講では、以下に挙げるようなテーマにそって、青年心理概論を行なう。
 ①自己意識…アイデンティティ論、ペルソナと本当の自分（自意識と他者意識）、自己嫌悪と自己受容、充実感と疎外感など。
 ②親子関係…心理的離乳、依存と自立、親子関係の病理、などについて。
 ③対人関係…友人関係の変容、孤独感と親密性、恋愛感情の発達。
 ④身体への意識…身体的発達、男らしさと女らしさ（性役割の獲得をめぐる）。
 ⑤将来展望…進路選択と職業意識の発達。
 ⑥青年期の精神病理…学校における不適応の問題、非行と攻撃性、成熟拒否—おとなになれない若者。
 青年期の真っ只中にいるものとして、積極的に取り組むことを通じて、自分自身を理解する一つの契機としてほしい。

【評価方法】 学期末に試験を行なう。また、テーマごとに全体討論あるいはレポート等で各自の意見を求めることもある。それらを総合的に判定して評価としたい。出席は重視する予定である。

【テキスト】 テキストとしては「青年の心理を探る」（久世敏雄編、福村出版）を使用するが、随時、プリント等の補足教材も用意する予定である。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13691	発達心理学特殊講義	選	2～4	2	前期	後藤宗理
他の科目との関連	発達心理学Aの展開科目			他学科履修	可	重複履修 可

【副題】 乳幼児期の発達心理学

【講義内容】 本講義では、人間の発達過程のうち、誕生から幼児期までの心理的発達について講義する。子ども自身がそれぞれの発達の時期にみせる心理学的特徴を概観するとともに、子どもを取り巻く多様な人間関係の様相も取り上げる。とくに、母親、父親、きょうだい、保育者などの関係について理解することを目的とする。

【講義計画】 本講義では、上記の目的に沿って、以下のように、問題を取り上げる。
 ①胎児期、乳児期から幼児期までの個体発達について取り上げる。
 ②乳児期における社会的発達を、母子関係、父子関係と関係づけて取り上げる。
 ③幼児期の社会的発達について、親子関係のほかに、きょうだいや仲間、そして、保育者との関係も視野にいれながら取り上げる。
 なお、時間的余裕があれば、夏休みのはじめに、保育園の見学を入れる予定である。

【評価方法】 学期末に筆記試験を行なう。

【テキスト】 若井郁夫・高橋道子ほか「乳幼児心理学」（サイエンス社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13692	発達心理学特殊講義B	選	2～4	2	後期	後藤宗理
他の科目との関連	発達心理学Aの展開科目、13691発達心理学特殊講義の続編			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 児童期の発達心理学

【講義内容】 本講義では、人間の発達過程のうち、児童期の心理的発達について講義する。児童期の子どもの心理学的特徴を概観するとともに、子どもを取り巻く人間関係の様相と心理的ストレスについて取り上げる。両親、仲間、教師などとの人間関係について理解するとともに、小学生を取り巻く教育的環境と心理的環境についても触れたい。

【講義計画】 本講義では、上記の目的に沿って、以下のように、問題を取り上げる。
 ①児童期の個体発達を取り上げる。
 ②児童期における社会的発達を、親子関係をはじめとする家族関係と関連づけてみていく。
 ③児童期の心理的問題を仲間、教師との関係や学校の環境と関連づけながら論じる。
 新聞や雑誌などの資料を参考にしながら、問題状況の理解を深めることにしたい。
 発達心理学特殊講義Aを受講していなくても受講できる。

【評価方法】 学期末のレポートによって評価する。

【テキスト】 小嶋秀夫「児童心理学への招待」（サイエンス社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13705	学習心理学	選	2～4	2	前期	杉江修治
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 学校学習の展開

【講義内容】 この授業では、教授学習の心理テーマとして進める。教育現場で実際に実践されている様々な学習指導法を、その背景にある原理、典型的なモデル、実践事例から理解していく。ここでは、実証的研究の基礎と応用との関わりについても考えることになる。

【講義計画】 次のような内容を扱う。
 「発見学習」「仮説実験授業」「完全習得学習」「プログラム学習」「オープン・エデュケーション」「習熟度別指導」「バズ学習」「集団主義教育」「CAI」「チーム・ティーチング」…
 授業はいわゆるレポート方式で行なうが、レポーターは、学んだことに単に報告するという形ではなく、それぞれのテーマでどんな論点があるか、課題の提起を行ない、論議のための材料を提供し、討論の司会をするという仕事をする。また、指導の実際を知るためにビデオによる学習も行なう。

【評価方法】 授業の最後に課題を出し、それに関するレポートの内容で評価する。あわせて、授業でのレポーターとしての活動を加味する。

【テキスト】 授業の都度、参考書を紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13706	学習心理学	選	2～4	2	後期	杉江修治
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 こどもをとりまく学習環境

【講義内容】 この授業では、実験的、基礎的な学習心理学の理論紹介などは行わない。こどもの学習を支える社会、文化的な状況を、教育心理学的な視点から検討する。様々な現実の教育的課題を考察していきたい。そのことを通して、こどもたちにとってよりよい学習環境づくりとは何かについての認識を深めたい。

【講義計画】 次のような内容を扱う。
「遊び」「家庭」「学級」「教師」「部活」「学力」「教育政策」「塾」「地域」「マスコミ」「早教育」「若者文化」…
授業はいわゆるレポート方式で行なうが、レポーターは、学んだことに単に報告するという形ではなく、それぞれのテーマでどんな論点があるか、課題の提起を行ない、論議のための材料を提供し、討論の司会をするという仕事をする。

【評価方法】 授業の最後に課題を出し、それに関するレポートの内容で評価する。あわせて、授業でのレポーターとしての活動を加味する。

【テキスト】 授業の都度、参考書を紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13711 13713	心理教育統計学Ⅰ・Ⅱ	選	2～4	各2	前期 後期	野口裕之
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 心理学・教育学の実験・調査研究を行なう際に必要となる統計的方法の基本的な技法及び考え方について解説する。心理教育統計学Ⅰでは得られたデータの特徴を記述する為の統計的方法を、Ⅱでは得られたデータを基により一般的な結論を導く為の統計的方法を取り上げる。さらに余裕があれば項目分析、古典的テスト理論など心理教育統計学に固有の話題も取り上げる予定である。ⅡはⅠの履修を前提とする。特に理由がない限り、ⅠとⅡの両方を連続して履修することが望ましい。

【講義計画】 Ⅰでは、平均・分散・標準偏差・相関係数・その他の関連性を表わす指標・直線回帰について取り上げる。授業時に電卓を用いて計算実習をしてもらおう。
Ⅱでは、確率に関して簡単な復習を行なった後、確率変数と確率分布・標本分布・仮説検定の考え方・仮説検定の実際について解説する。Ⅰと違ってⅡでは“考え方”あるいは“道筋”をじっくりと理解してもらおうことを目標にする。従って、具体的な仮説検定の方法は精選して取り上げることになる。

【評価方法】 主として筆記試験によるが、一定の条件を満たした者には平常点を加味して評価する。詳細は授業時に説明する。

【テキスト】 特に指定せず、講義時に教材を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13731	社会心理学	選	2～4	2	前期	吉田俊和
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 個人が、他者の印象をどのように形成したり、他者の行動の原因をどう見たり、どのような他者に魅力を感じたりするのかについて概説する。また、集団内の個人が、他者にどのような影響を与えたり、影響を受けたりするかについても述べる。

【講義計画】 1～3. 対人認知、原因帰属
4～6. 社会的態度
7～9. 対人魅力
10～12. リーダーシップ、集団規範
13～14. 流言現象

【評価方法】 定期試験

【テキスト】 大坊郁夫・安藤清志編『社会の中の人間理解』（ナカニシヤ出版）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13732	社会心理学	選	2～4	2	後期	吉田俊和
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 個人が他者に対して、どのように自分を見せようとするのか、他者とのコミュニケーションにおいて、ノンバーバルコミュニケーションはどのような役割を果たしているのかについて概説する。また、他者の存在が個人の課題遂行や意思決定に対して、どのような影響をもつかについても論じる。さらに、個人とより大きな社会との関わりについても述べる。

【講義計画】 1～3. 自己呈示、自己開示
4～6. 対人コミュニケーション
7～10. 社会的促進、社会的手抜き、集団意思決定
11～14. マス・コミュニケーション、流行現象

【評価方法】 定期試験

【テキスト】 大坊郁夫・安藤清志編『社会の中の人間理解』（ナカニシヤ出版）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13741 13745	調査・測定法Ⅰ・Ⅱ	選	2～4	各2	前期 後期	神谷俊次
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副題】 質問紙調査法

【講義内容】 人間理解のための心理測定の考え方や方法について理解を深める。特に、心理測定においてもっとも一般的な質問紙調査法の特徴について理解し、簡単な質問票の作成、データの収集、分析を試みる。3、4年生で質問紙調査によるアンケート調査を実施する予定の3年生を主な対象とする授業である。受講生は、心理教育統計学Ⅰ、Ⅱを履修することが望ましい。

【講義計画】 調査・測定法Ⅰ
(1)心理学における心理測定の実際…『教育心理学研究』から関連する論文を精読
(2)質問紙調査法に関する解説…質問紙の形式、質問紙の作成手順、作成上の注意事項
(3)質問質問紙の作成…テーマに関する討議、質問項目の検討、実施計画の立案
調査・測定法Ⅱ
(1)調査の実施
(2)コンピュータ実習…使用方法、統計解析プログラム
(3)調査データの分析…項目分析などの分析方法、信頼性、妥当性に関する講義、分析実習
(4)まとめ…報告書の作成、結果の発表会

【評価方法】 調査・測定法Ⅰ：論文発表、レポート、出席などに基づいて評価する。
調査・測定法Ⅱ：出席、および最終報告書によって評価する。

【テキスト】 必要に応じて印刷資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13755 13761	心理臨床検査法Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前 期 後 期	池田豊應
他の科目との関連	ⅠとⅡの両方を履修することが望ましい。			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 さまざまな心理検査による自己分析

【講義内容】 Ⅰでは、まず、心理臨床検査を実施するにあたって、要請される心理臨床家としての基本的態度について説明し、検査実施の意味と目的について検討する。次に、現在臨床場面で一般に行われている代表的な知能検査、質問紙法、描画法、投映法等についての概説をする。

受講生はこれらの心理検査について、演習の中でみずから経験しつつ、その理論や実施法、採点法、解釈法について習得することになる。

なお、これらの心理検査は、将来、臨床に携わったときに役立つだけではなくて、心理学の具体的な「研究方法」であるので、今後の卒業研究等における接近方法としても大いに活用しうるものである。

Ⅱではもっぱら、投映法の中でも、習得がもっとも難しいとされているロールシャッハ法を取りあげ、その実施法、分析法、解釈法について、演習形式での学習をすすめることにしたい。被検者に実施する練習も行うが、最終レポートは自分自身の検査記録にもとづく「自己分析」の試みとする。

【評価方法】 その都度の演習課題にのぞむ態度、およびそれに関する小レポート、出席状況、最終レポートの内容から、総合的に評価する。

【テキスト】 Ⅰでは用いない。Ⅱでは、初回授業で指定する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13765	教育総合講義	選	3・4	2	後 期	三上茂 廣田照幸 酒井 朗 Michael Calmano 石田裕久 伊藤美奈子
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 <学校教育>

【講義内容】 本講義は、ある特定のテーマに関して、教育学・心理学のさまざまな専門領域から、それぞれのアプローチによって考察・検討を加えようとするものである。こうした方法を通じて、一つの問題に対する多角的な学問的接近のあり方を学ぶとともに、各自の問題意識に基づいた活発で積極的な討議を行いたい。

本年は<学校教育>をテーマとして取り上げ、われわれが直面する<学校教育>の諸問題について、担当者独自の多様な視点から討論していく予定である。

【講義計画】 本講義は6人の担当者がそれぞれ2回ずつ講義を行う。シラバスを講義の最初に配布するので、詳細はそちらを参照されたい。講義の最後には担当者全員が出席してのディスカッションの機会も設けるので、受講者の積極的な参加を期待したい。

【評価方法】 出席状況とレポートの内容を総合的に判断する。

【テキスト】 使用しない。

(注) 旧カリ生は、4年生必修科目。